

構想名	「若手国際イノベーション特区	」
組織運営総括責任者名	「岸 輝雄	」
育成機関名	「独立行政法人 物質・材料研究機構	」

## 機関の現状

### 1. 研究ポテンシャルの現状

NIMSは物質・材料研究において、基礎・基盤研究から応用・実用化研究まで幅広く実施している。前身の無機材質研究所は平成5年度に旧国研の第1号COE機関に、2年後には金属材料技術研究所もCOE機関に認定され、材料研究の世界の中核的な役割を担ってきた。一昨年4月の統合後、中期計画に沿って、ナノ物質・材料、環境・エネルギー材料、安全材料、研究基盤・知的基盤の充実に関する研究を重点的に推進している。

### 2. 研究開発システムの現状

NIMSのアクティビティの倍増を実現させる視点から、組織改革に加えて、NIMSポスドクや内部競争資金などの新規な活性化策を講じている。また、研究者個人業績評価システムの導入や外部からのリーダーへの登用等も推進している。しかしながら、2研究所統合後の融合がまだ十分に進んでいないこと、研究分野が金属やセラミックスに偏っていること、若手で優秀な外国人テニュア研究員が不足するなど早急に改善すべき課題を抱えている。

## 組織運営構想

### 1. 研究開発戦略

NIMSはナノテクノロジーと情報、生命科学、環境、材料が互いに融合した新しい研究分野の展開を図り、従来型の研究からの大胆な脱皮を図ってゆく。高リスクの研究や長期的・大規模な取り組みが必要な研究を重点的に推進し、NIMSの特徴を前面に押し出してゆく。

### 2. 組織運営戦略

NIMSを独法の研究所の中で最もシステム改革が進んだ研究所に変革させるため、「若手国際イノベーション特区」を導入し、そこに世界から優秀な若手研究者を約30人程度集結させ、NIMSの既存メンバーでは推進が困難な新研究分野の立ち上げ研究を行う。英語を公用語とした研究体制や徹底した成果主義による給与システムや人事システムなどユニークな組織運営法をモデル的に試行する。5年後には新制度をNIMSに移植し、NIMSの再生・活性化を実現する。

## 目指すべき拠点及びその波及効果

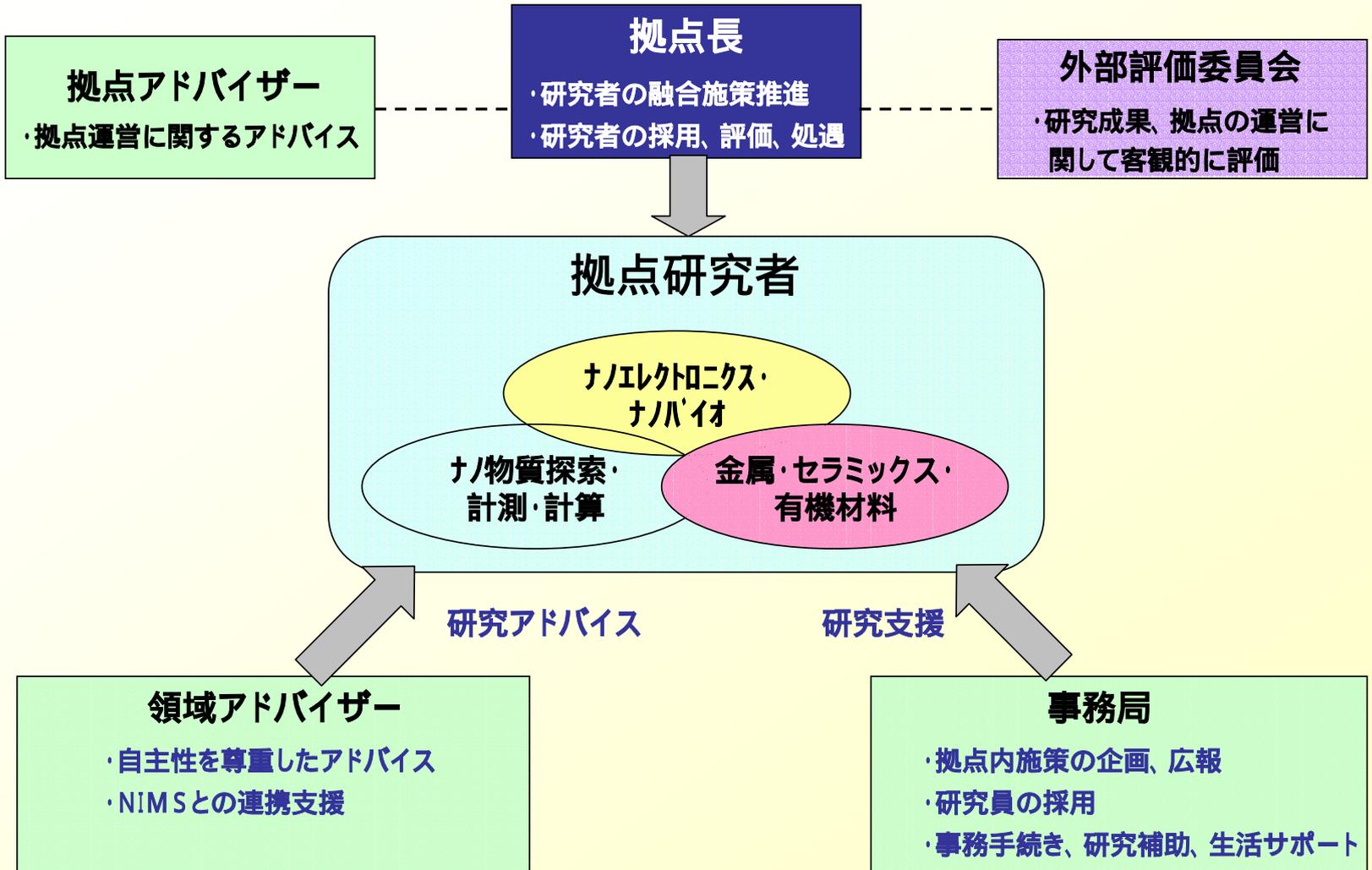
### 1. 目指すべき拠点

若手研究者の創造性を最大限に引き出すことのできる拠点を目指す。特区では、研究リーダーを置かず、国内外の一流若手研究者が集結し、互いに切磋琢磨していく中で、異分野融合型の優れた研究成果を創出する。また、次世代リーダーの登竜門としての機能も果たす。英語の公用語化の実施、徹底した成果主義の評価・処遇など、日本で初めての研究運営を試行し、まさに国際的かつ競争的な研究拠点を実現する。

### 2. 波及効果

新拠点で能力を開花させた若手研究者をNIMS本体に還元させ、NIMS全体の改革を大幅に加速する。また英語に精通した事務系職員も本体に還元し、NIMS全体が外国人にとって言語的な障害のない環境の整備を加速する。この改革モデルは独法化する大学や他の国研、公設試験所などの改革モデルとなる。

# 若手国際拠点の運営体制



# 若手国際拠点の運営戦略

- ミッションフリー、ボトムアップで革新的基礎基盤研究を推進 -

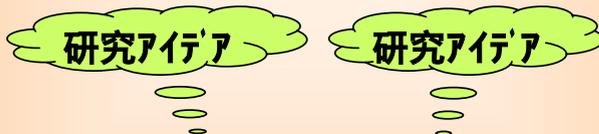
## 融合新領域の研究

1. ナノエレクトロニクス・ナノバイオ融合領域
2. ナノ物質探索・計測・計算融合領域
3. 金属・セラミックス・有機材料融合領域

領域アドバイザー  
独創性重視の評価



魅力的な研究環境  
強力な研究支援  
英語の公用語化  
高い給与水準



リーダーを置かない超フラットな組織

若手(20~30歳代)  
多国籍(外国人50%以上)  
多分野

## 目標

システム

国際的に開かれた  
研究拠点の構築

テーマ

融合領域の新テーマ  
と優れた研究成果の  
創出

人材

高いレベルの人材  
育成

連携

国際的ネットワーク  
の強化